

国語 第2学年 書いたら、見直そう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：書いた文を読む相手の立場で読み返し、文字の間違いと文の続き方を区別して直す。正しい文を写すだけでなく、直した理由を話す。B(1)エの学習として、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録。長い清書を求めず変えた箇所が分かるようにする。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、書いた文章を読み返し、文字の間違いや語と文の続き方を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録を残す。長い清書を求めず変えた箇所が分かるようにする。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：間違い探しだけにして意味を確かめない、教師の正答を写して直す。これに対して、独自例「ぼくわ こうえんえ いきました」を声に出して読み、発音と助詞の書き方を分けて確かめる。文末に指を置いて区切りを確認し、児童自身の文にも同じ観点を使う。〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「どこを直すと、したことが相手に伝わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録は紙に記録できる。長い清書を求めず変えた箇所が分かるようにする。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し：独自例「ぼくわ こうえんえ いきました」を声に出して読み、発音と助詞の書き方を分けて確かめる。文末に指を置いて区切りを確認し、児童自身の文にも同じ観点を使う。完成品だけでなく、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録。長い清書を求めず変えた箇所が分かるようにする。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「どこを直すと、したことが相手に伝わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

